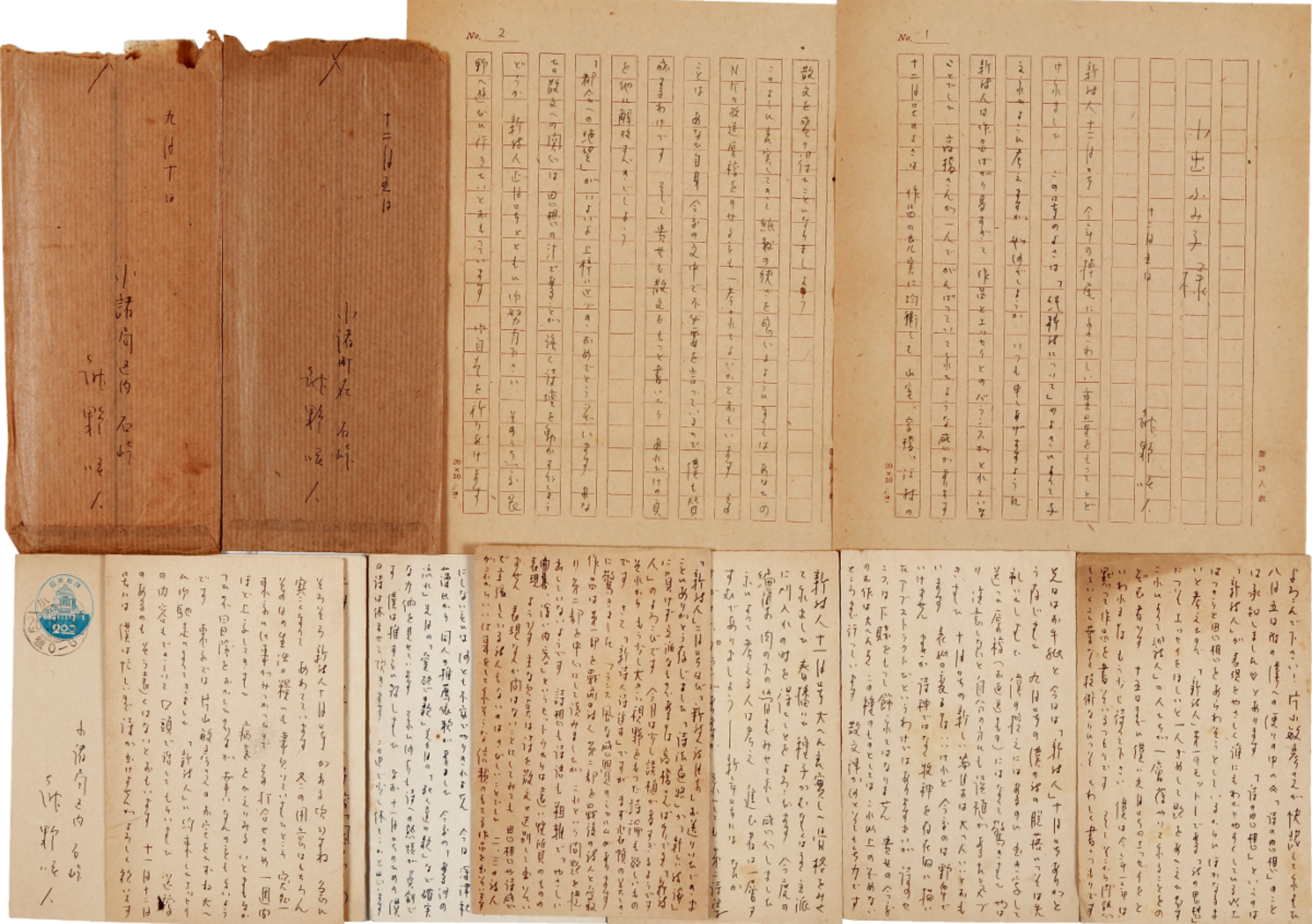

No. 1

小出ふみ子様

十二月五日　沫野峰人

新詩人十二月号　今年の掉尾にふさわしい重量をもってとどけられました　この号のよさは「純粋詩について」のよさといえると考え、あのような考えが　やはりでしょうか　いつも申しあげますように新詩人は作品ばかり多すぎて　作品とエッセイとのバランスがとれていないことでした　高橋さんが一人でがんばっていてくれるような感があります

十二月号のよさは　作品の数に実に均衡して　山室、高橋、江村の

No. 2

散文を通り得たことになりましょう

このように表現してきて純粋の続きを思いますようなそれでは　あなたのN氏の放送原稿をのせることも一考されてよいかとおもいます　それことは　あなた自身　今号の文中で不必要と言っているので　僕も賛成するわけです　そして　貴女も散文をもっと書いたり　あれだけの良さを細い解釈すべきでしょう

「都会への絶望」がいよいよ上梓された由　おめでとうございます　あなたの散文への関心は　思想の汁で養われて　強く詩壇を動かすでしょう　どうか　新詩人近日号とともに御努力下さい　ますます良い分野へ進んで行きたいとおもっています　御自愛を祈りあげます

十二月五日

小諸町在　石峠
沫野峰人

九月十日

小諸町乙内　石峠
沫野峰人

よろこんで下さい　片山敏彦さんが快諾して来ました　八月五日附の僕への便りの中へ今「詩の思想」ということは承知しましたとあります　「詩の思想」ということは「新詩人」が表現をやさしく誰にもわかりやすくしている以上はっきりと思想をあらわそうとして　いま求められるよいと考えたもの　「新詩人」第一のモットーです　「詩の思想」についてエッセイをほしいと一人ぎめして頼みとおしました　これによって「新詩人」の人たちが一層啓発されることとのぞみ居ります　十五日までには僕の方のエッセイをといわれるなら　もう少し待って下さい　僕は今年一杯は黙って作品を書いているつもりです　そしてそれから内部的にもいくらか技術なりについてくわしく書くつもりです

先日はお手紙と　今日は「新詩人」十一月号ありがとうございました　九月号の僕の詩の脱落については先刻いたしました　僕の控えにはあるのに　書き写して送った原稿（お送りしたもの）にはなくて驚きました　やはり注意したいと自分の方でも詩稿がまぎれてきました　十一月号の新しい詩は大へんいいとおもいます　表紙の変るのはいいけれど　今号のは野卑でいけません　まさか精神ではなく技術を自在に描いたアブストラクトというわけではありますまいが　詩はせこうは下駄をもって餅つきではなりません　貴女の今号のお作は大へんよく　この種のものとしてはこれ以上のものめないところまで行っています　散文詩がはやくすぐれそうな努力です

新詩人十一月号大へん充実して一段格をみせて来ました　高橋さんの様子がむくなくとも主派に刈入れの時を得たことをよろこびます　今度の編集は　肉の下の当目もみせてくれました　ないように考える人は考え　進む者は一層すすむでありましょう――新年号には　なにか

[illegible]

「新詩人」二月号ならびに「新詩人」御送りいただきまことにありがとうございました　「詩法通照」かつ「新しい詩論」に負けず立派なもので　高橋さんもさぞ「新詩人」のよろこびです　今月は少し詩稿が多すぎるようです　それからもう少し大きい視野をもった詩論も欲しいものです　さて「新詩人は詩集」ですが　まず必須の美しさに驚きました　フランス風な感覚のシャルムがあります　作品は第一部を戦前の詩人　第二部を戦後の詩人と分類り　第二部を中心にして読みましたが　これという問題を提おしていないようです　詩想にも詩語にも粗雑で　やさしい感傷、淡い内容というヒットウからは遠い体験そのものの表現ようです　また気分は詩を散文と区別して書いていません　表現技法が向上はないことにしてみても　思想や詩感で立派といえる詩人もないのはさびしいことでしょう　二、三の詩人がこれからいい仕事をしてくれそうな信頼のもてる作品をおくっています

にしないものは何としても不安でゆききれません　今日　深津秋島田氏から同人の推薦依頼が来ました　今号の「春湯河の流れ」また「愛読の歌」また「新人選の歌」など確実な力作を見せています　それから詩への熱情が真剣です　僕は推薦を承諾しました　なお十一月のための僕の詩は休ませて戴きます　この辺で少し休もうとおもいます

そろそろ新詩人十一月号が出る頃ですね　色々寒くなりました　あわてています　冬の用意はもちろん冬の生活の糧にも事欠いているところ　突然一来ての仕事がみつからず　その打合せのため一週間ほど上京してきました　病気とかえりみるいとまもなかったので　[illegible]　です　東京では片山敏彦さんのお宅をたずねて大へん御馳走になってきました　「新詩人」に約束したエッセイの内容もできたので　口頭で話してもらいました　近稿のあるのも　そう遠くはないとおもいます　十一月十二日　それは　僕は忙しいので詩がかけませんがよろしく願います

日本郵便
2.00

小諸町乙内　石峠
沫野峰人